

令和 2 年度 さいたま市立 大原中 学校 学校関係者評価書

さいたま市立 大原中 学校

学校関係者評価委員長 細田 秀作



1 学校関係者評価の実施体制

(1) 構成人数 13名

細田 秀作、伊東 千代、杉林 正敏、黒澤 隆久、須藤 伸樹、沼尻 邦彦、岸 勝子
治部田 歩、校長、教頭、教務主任、生徒指導主任、学校地域連携コーディネーター

(2) 実施回数 2回

令和2年8月24日(水)、令和3年2月16日(火)(紙面開催)

2 学校関係者評価(学校関係者評価委員の意見等)

- コロナ禍で思い通りにいかないことが多い中でも、生徒はよく頑張っていた。学校のきめ細かい指導によって、保護者の信頼感が向上していること、自分は大切にされているという生徒の気持ちが高まっていることなどが、学校評価から分かる。教職員の働き改革を一層進めて、より充実した教育活動に努めてほしい。
- 生徒の組織を改編し、いじめ見逃しゼロを目指す生徒主体の取組を、大変頼もしく感じる。
- 交通量の多い道、幅の狭い道など、学校周辺の道路環境を考えると、更なる安全指導の徹底が必要である。学校だけでなく、地域、保護者の協力も得ながら進めていくことが必要である。
- コロナが収束した後は、ボランティア活動や地域の行事参加など、今まで行ってきた地域での活動を、さらに充実させ、「開かれた学校づくり」を推進してほしい。

学校関係者評価を受けた学校の対応

- 委嘱を受けて取り組んでいる本校の研究課題「主権者教育」において、「話し合い活動」に重点を置いた授業や主権者教育の視点を取り入れた教科横断的な授業の実施、「大原前進プロジェクト」を中心とした「生徒たちの、生徒たちによる、生徒たちのための学校づくり」に取り組む。
- 外部機関との積極的な連携により、生徒指導・教育相談のより一層の充実を図る。
- 今年度、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために中断した地域の行事への参加やボランティア活動、浦和レッズや障害者交流センター、上木崎公民館等、近隣施設との交流を復活・充実させ、地域の方々とのお触れ合いを大切にしながら、生徒の自己肯定感や帰属感を育てる。
- 登下校の安全指導をさらに徹底するとともに、地域の方々や保護者の協力を仰ぐ、大原前進プロジェクト等の活動等を通して生徒の問題意識を向上させることなどによって、生徒の安全・安心な登下校の実現に向けた取組を充実させていく。
- 学校運営協議会準備委員会での熟議を通して、学校、家庭、地域が一緒にできることについての共通理解を図る。

さいたま市立大原中学校長 小熊 誠

